

おはなし ビタミンC

第55号

平成24年1月発行

新春号



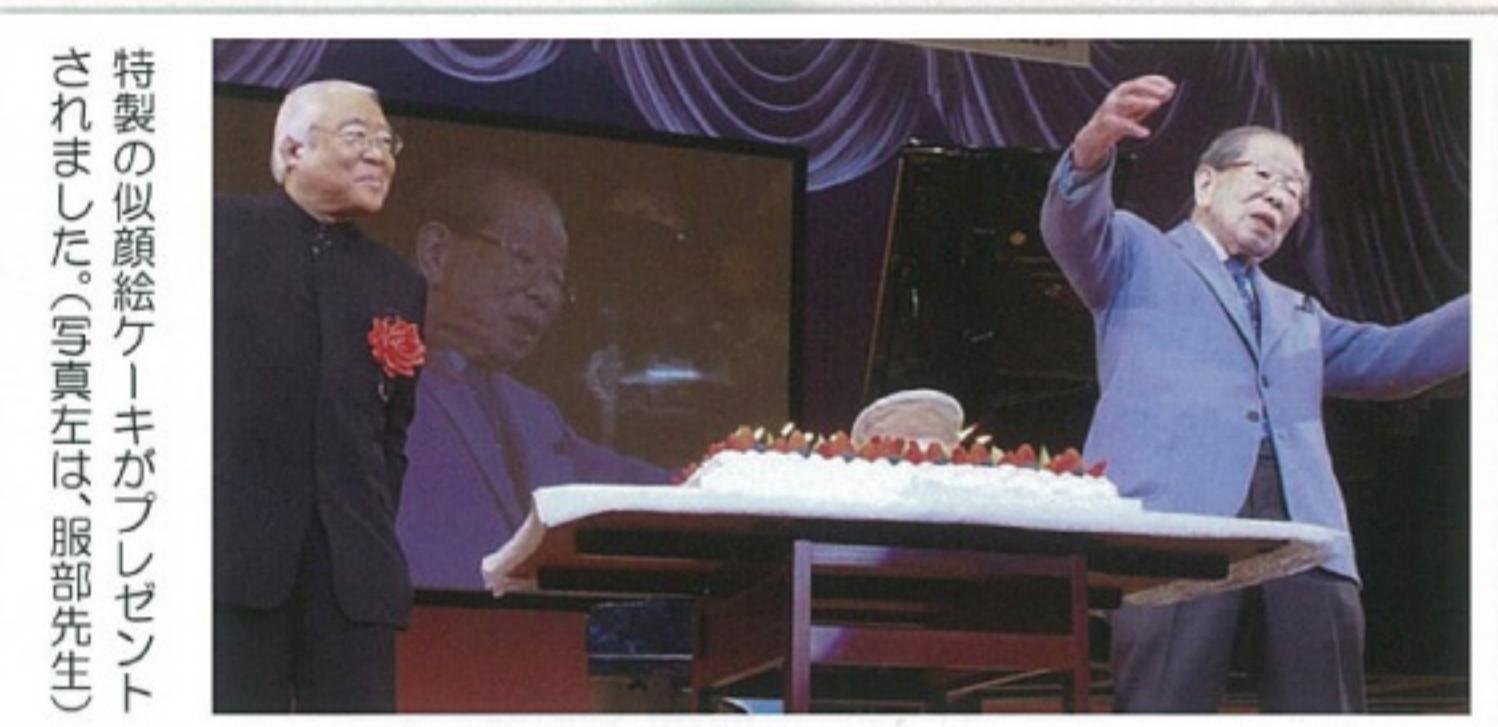
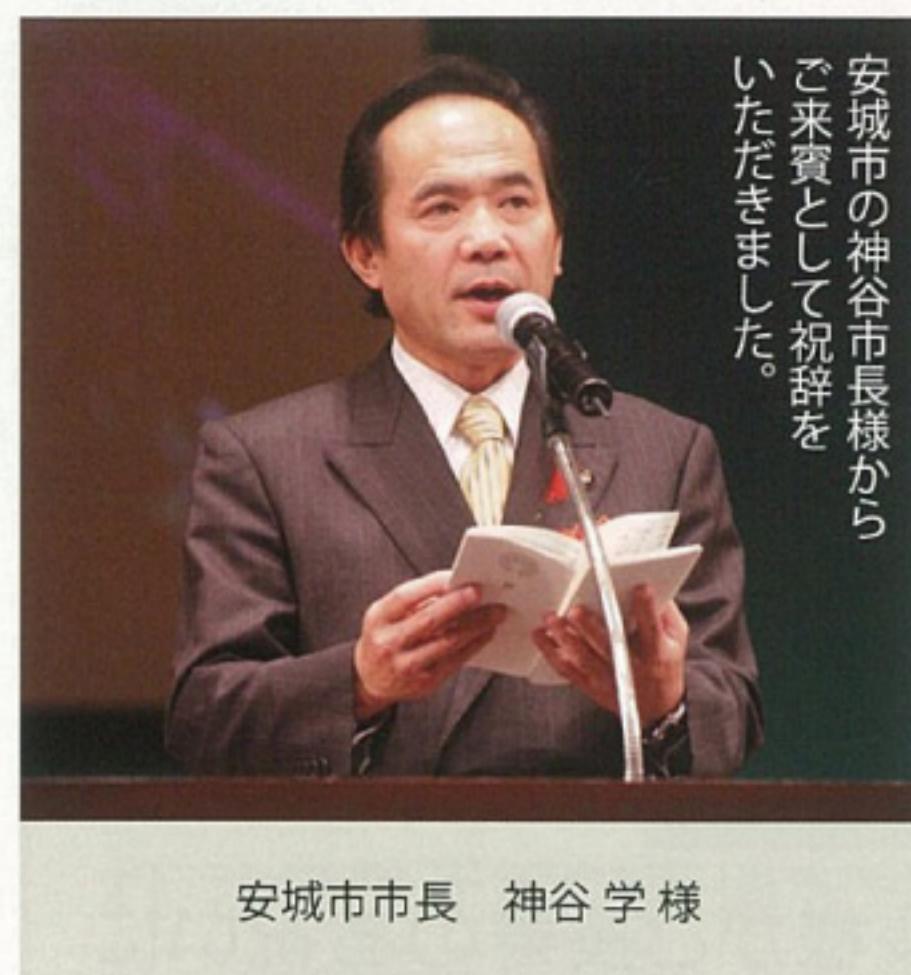
第55号 目次

■日野原重明先生 百寿記念 特別講演会	2
■服部幸應先生 小川の里来所記念 特別講演会	2
■特別養護老人ホームあいふるの里／デイサービスセンター座・柿ノ木	4
■特別養護老人ホーム萩の里／風の苑マグノリア	5
■グループホーム田苑そよ風／養護老人ホーム新和楽荘	6
■特別養護老人ホーム小川の里／グループホーム田苑春風	7
■小規模多機能ホームあかねぞら大黒・恵比須／特別養護老人ホーム瀬音さくら山荘	8
■デイサービスセンターしゃくなげ荘／白川郷研修センター「白銀荘」	9
■平成23年度社員表彰	10
■今昔物語／中部善意銀行芸能まつり	12
■ファミリーフレンドリー企業活動／法人内社員接遇研修	13
■懐かしのテレビドラマ特集	14
■編集後記	15
■NHKドラマ「家で死ぬということ」制作秘話@瀬音さくら山荘	16



社会福祉法人
愛知慈恵会

NCE1989



日野原重明先生プロフィール

1911年山口県生まれ。京都大学医学部卒業、同大学院修了。41年聖路加国際病院に内科医として赴任。51年米国エモリー大学に留学。73年(財)ライフ・プランニング・センター創設。早くから予防医学の重要性を指摘、患者参加の医療や医療改革に向けての提言、終末医療の普及や「成人病」に代わる「生活習慣病」という言葉を提言するなど、医学・看護医療の刷新に尽力。2000年には「75歳以上」の新しい生き方を提唱して「新老人の会」を立ち上げた。以上の長年の功績が認められ、2005年に文化勲章受賞。現在、聖路加国際病院理事長・名誉院長。著書に『死をどう生きたか』(中公新書)、『生きかた上手』(ユーリーグ)、『10歳のきみへ』(富山房インターナショナル)ほか多数。

このたび小川の里は開設10周年を迎えることになりました。地域の皆様への感謝の気持ちを込めて財団法人聖路加国際病院 理事長 日野原重明先生の講演会を開催させていただくこととなりました。朝から雪が舞う天候の中、1,200名の方々がご来場し、日野原先生のお話に耳を傾けました。またミュージック・パートナーとしてソプラノ声楽家の池田美保さん(山形でご活躍の歌のお姉さん)、バリトン声楽家の芳野靖夫さん(フェリス女学院大学音楽学部名誉教授)にもご登場していただき、音楽とのコラボレーションも楽しめました。とても100歳とは思えない身のこなし、優しい笑顔と張りのあるお声で講演をされました。ご自身の手帳に十年先の予定が書き込まれていることも紹介。会場いっぱいのご来場者に元気と生きる希望をいただきました。本講演会の開催にあたりまして、共催・後援でNHK厚生文化事業団中部支局・安城市・愛知県・中日新聞社・中日新聞社会事業団・中部善意銀行の各機関の皆様方にご支援をいただきまして、誠に有り難うございました。

服部幸應先生プロフィール

東京都出身。立教大学卒業。学校法人服部学園 服部栄養専門学校 理事長/校長。医学博士/健康大使。社団法人全国調理師養成施設協会会长、社団法人全国栄養士養成施設協会副会长、内閣府「食育推進会議」「食育推進基本計画検討会」委員。日本の料理会を牽引するカリスマ。数多くのテレビ番組の出演・監修を行い、数々のスター料理人を育てる。



「食育」について、わかりやすく
楽しいお話をしてくださいました。

「服部幸應先生 小川の里来所記念特別講演会」 ～食育の底力～

同日に学校法人服部学園理事長 服部幸應先生(医学博士/健康大使 お茶の間でもおなじみの食の探究者)が小川の里へ来所され、特別講演会が開催されました。軽妙な語り口で「食育」について語られ、メモをとられるご来場者も多く、大変勉強になりました。また当法人の調理課・栄養課のスタッフに激励のお言葉をいただき、記念メダルの贈呈もしていただきました。日々大変な激務をこなす調理課・栄養課のスタッフにとって大きな励みとなりました。



高齢者福祉施設 小川の里 開設10周年記念事業 「日野原重明先生 百寿記念」特別講演会 ～100歳からのスタートライン～

開催日:平成23年12月26日(月) 会場:安城市民会館サルビアホール

豪華、ご長寿、揃い踏み!

11月3日、萩の里では文化祭が開催されました。右の写真は97歳から102歳までの萩の里ご長寿ファミリー4名と、当日フラダンス慰問に来てくださった方々です。華麗な衣装のダンサーに囲まれ、よりお元気な表情を見せていただきました。当日は素敵なフラダンスやお子さん達のかわいらしいダンスを見せていただき、楽しい時間を過ごさせていただきました。アップの写真の方は4名の中で最長寿の佐野つや子様(102歳)です。甘いもの好きな方で、スタッフが冗談を言うと、いつも表情豊かに受け答えをしてくださいます。これからもお元気でいてくださいね。



ご高齢にも関わらず大変お元気な小出光重様!



小出光重様
105歳

いつもクラブ活動や行事・慰問に率先して参加され、ご高齢にも関わらず大変お元気なファミリーです。歌を歌うことが大好きで、音楽療法やきらきら体操では必ず先生の目の前の席に座られ、誰よりも大きな声で歌われる様子はお年を感じさせません。一宮市の男性の中で最高齢の方で、実は108歳のお兄様が福井県敦賀市でご健在とのことです。



谷一宮市長様が施設へ訪問してくださいました!



10月4日、一宮市長様がご長寿のお祝いに施設へ訪問してくださいました。100歳以上のファミリーとして、小澤秋様(102歳)・吉澤イチ工様(100歳)・長合登女子様(100歳)の3名が市長様と握手を交わし、「おめでとうございます!」とお祝いのお言葉をいただきました。この日は市長様も誕生日だったそうで、ご自分のことの様に喜ばれ、ご長寿の方一人一人にお言葉をかけられていました。(日野原重明先生も、当日100歳になられました)



産・社ノ木

デイサービスセンター

おちょぼ稻荷へ行ってきました!

11月9日、おちょぼ稻荷へバスピクニックに行ってきました。当日は天気も良く、絶好のお出掛け日和でした。楽しく、和やかに散策しながら、お買い物をしたり、あつあつの串かつやたい焼きを食べました。

帰りのバスの中では、皆さん満足そうな表情で、「楽しかったし、お腹いっぱいだ」、「たくさん買い物をして、ストレス発散できた」と笑顔でお話されていました。



『小川の里』ご長寿三人娘、 すてきな笑顔に日々元気を 頂いています!



小野シヅ様

明治40年3月26日生まれ
何をするにも「どっこい、どっこい」の掛け声で長生き。104歳。

杉浦志津子様

明治43年3月5日生まれ
毎日のお肌の手入れは欠かしません。
101歳。

濱本ハルエ様

明治43年3月4日生まれ
色白で目元パッチリベっぴんさん。
101歳。



計算得意な95歳!

田苑春風の最長老は、笑顔の素敵なお爺さん。毎日、体操で体を動かしたり、草花を眺めながらお散歩されたり…。三度の食事もしっかり食べられ、ご自分のペースでのんびり生活されています。95歳とはいえ、計算が得意で、足し算・引き算はもちろん、掛け算・割り算までなんでもこいつ!時にはそろばんも使いながら、真剣に計算問題に取り組んでみえます。

敬老会では、ご家族の方も一緒に参加してくださり、楽しいひと時を過ごされたのではないでしょうか。田苑春風の最年少スタッフからお祝いの花束とともに「若さ」も受け取り、100歳を目指してがんばりましょう!!



田苑春風

グループ
ホーム



スタッフの結婚をファミリーとお祝いしました!



田苑そよ風のスタッフが結婚するにあたり、何と、そよ風内で結婚披露宴を行いました。会場はファミリーとスタッフが準備をし、当日はご親族の方もみえる中で、おふたりの幸せをお祝いしました。幸せそうな姿を見て、ファミリーの表情も緩みました。おふたりもファミリーのご長寿にあやかり、「100歳になつても一緒にいようね。」と言って周囲が照れくさくなる場面もありました。

長生きの秘訣は歩くこと!

沢田みねさんは大正6年3月11日生まれ。現在94歳と新和楽荘では最年長。20分ほどかけ、歩いてスーパーまで買い物に出かけられたり、フラダンスをされたり、配膳当番をされたりととてもお元気です。100歳まで生きたいという目標を持っており、その目標を叶えるため、健康にも気をつけてみえます。長生きの秘訣は?と聞くと、「歩くことかな。」と、笑顔で答えてくれました!



パン食い
競争



運動会がんばるぞ!!

新和楽荘

養護老人
ホーム



目指せ100歳!!

また、10月5日にはファミリー全員が1日でも健康で長く新和楽荘で生活して頂きたいと思い、運動の楽しさ、大切さを知ってもらうため中島小学校3年生の皆さんと運動会を開催しました。初めての取り組みの中、スタッフもどうなるのか不安でしたが、玉入れ、パン食い競争など皆さん大盛り上がりで笑顔で楽しく運動する姿を見て胸が熱くなるスタッフ一同でした。

平成23年度 社員表彰

長年にわたる当法人や地域への寄与、または日々のたゆまぬ努力でご利用者の支えとなったスタッフに感謝し、毎年12月に表彰を行っています。本年の栄えある受賞者をご紹介します。



あいふるの里
特養 徳田 清仁さん

まずはこの場をお借りして、ここまでされたのも今まで皆様のご指導やご助言などたくさんいただいたからだと思います。皆様のご協力、ご支援がなければ今の自分はないと思います、このような賞をいただくことはできなかったのではないかと思います。これからは今まで支えてきていただいた方々に、少しでも恩返しができるよう支える側にまわる事で、今までに支え合いができる職場環境づくりに努めて参りたいと思います。

〈施設長より一言〉

入社して10年、ついに受賞です。「重たいテントを運ぶ台車の発明」「特養稼働率100%」2つの偉業を成し遂げました。あなたから決してあきらめない事を教わりました。勇気と感動をありがとうございます。



あいふるの里
特養 水野 雅司さん

この度は名誉ある賞をいただきありがとうございます。ファミリーの笑顔やたくさんのスタッフの方々の支えがあつて10年間努めてこられました。これからもこの賞に恥じぬよう一生懸命働いていきたいと思います。

〈施設長より一言〉

今年1番の輝きでしょう。格安ディスポート格安尿取りパット、スタッフに文句を言われながらも上手にかわし、見直し見直しで経費削減に貢献しました。困った時は水野相談室へ。



萩の里
特養 前田 幸治さん

なぜ、私がこの賞をいただけたのか信じられません。きっとこの賞は、私を取り巻くスタッフ全員の賞だと思い、その代表として、私がいたいたものと思っております。今後は、そのスタッフが働きやすく楽しい仕事が出来るように恩返しの意味も込めて努めていきたいです。

〈施設長より一言〉

萩の里に勤務して1年半位ですが、介護の知識・技術ともに一目置かれる存在です。思慮深い観点から鋭く物事を観察される能力は、今後も大いに活かされる事でしょう。これからの働きに益々期待をします。

第8回 多年勤続表彰

下記のスタッフの方々が受賞されました。多年勤続おめでとうございます。今後もお元気で活躍されることを祈っております。(敬称略)

勤続10年

- あいふるの里
特養 德田 清仁
- あいふるの里
特養 德田 秀治
- あいふるの里
特養 宮川 昭
- あいふるの里
特養 德田 清仁
- あいふるの里
訪問介護 脇田 里子
- 萩の里
施設長 中島 誠
- 萩の里
包括 早川 恵美
- 萩の里
看護 後藤 貴之
- 萩の里
特養 天川 知貴
- 萩の里
特養 柳沼 佐夜子
- 萩の里
特養 平林 幸子
- 萩の里
リネン 竹中 紀久夫
- 萩の里
環境 松原 稔明
- 萩の里
総務 松田 千賀子

勤続5年

- 新和楽荘
特養 市川 真佐子
- 新和楽荘
総務 細尾 直美
- 新和楽荘
総務 平田 ちず子
- 田苑そよ風
介護 繼田 幸子
- 本部
管理部 脇田 里美
- あいふるの里
特養 関口 直美
- あいふるの里
特養 戸松 哲也
- あいふるの里
特養 沢井 雄太
- あいふるの里
ショート 西村 健一
- あいふるの里
居宅 森田 美奈
- あいふるの里
看護 脇田 直美
- あいふるの里
看護 鬼頭 千賀子
- 調理 碓井 文子

萩の里
道端 弘美

- 萩の里
特養 平松 知憲
- 萩の里
服部 保子
- 萩の里
弦巻 潤子
- 萩の里
特養 岩田 ひろ美
- 萩の里
特養 野々部 美保子
- 田苑そよ風
介護 服部 道子
- 小川の里
特養 磯村 昭子
- 小川の里
特養 岸本 侑香
- 小川の里
特養 青木 正子
- 小川の里
特養 長野 五子
- 小川の里
看護 大竹 美和
- 小川の里
ショート 白石 ひとみ
- 田苑春風
介護 仲井 典子

第8回 社員表彰 (ブルーリボン賞)

下記のスタッフの方々が受賞されました。今後ますます健勝で、後進の指導にご尽力されますよう祈念いたします。(敬称略)

最優秀社員賞

- あいふるの里
特養 水野 雅司
- あいふるの里
特養 徳田 清仁
- 萩の里
特養 前田 幸治

業務善行賞

- 本部
管理部 石黒 薫
- あいふるの里
居宅 森 真美
- あいふるの里
特養 二階堂 麻由美
- あいふるの里
デイサービス 山本 かよ子
- 萩の里
特養 伊藤 愛乃
- 萩の里
居宅 浅野 俊充
- 風の苑マグノリア
特養 伊藤 あかり
- 小川の里
看護 樺原 好美
- 小川の里
環境 加藤 晓美

業務改善・発明賞

- あいふるの里
特養 小島 加奈代
- あいふるの里
特養 甲斐 義男
- 小川の里
総務 加藤 輝海
- 小川の里
調理 篠谷 圭助

敢闘賞

- あいふるの里
調理 河邊 智史

新和楽荘
調理 岩田 佳恵

- 濑音さくら山荘
特養 山田 金市
- 新和楽荘
養護 安田 君代
- 新和楽荘
看護 小池 美奈子
- 新和楽荘
調理 松井 章浩
- 田苑そよ風
介護 松田 希世実
- 風の苑マグノリア
特養 関谷 拓己
- 小川の里
特養 藤田 和哉
- 小川の里
特養 深津 明子
- 小川の里
デイサービス 太田 幹二
- 小川の里
居宅 井上 貴子
- 田苑春風
介護 井上 法子
- 大黒・恵比須
管理者 坂崎 雄清

瀬音さくら山荘
特養 寺口 弘美

- 濑音さくら山荘
特養 桧田 隼也
- 濑音さくら山荘
特養 片田 寿
- 濑音さくら山荘
調理 田島 雅文
- 濑音さくら山荘
調理 大谷 節子

新人賞

- あいふるの里
特養 國田 頌子
- あいふるの里
特養 重松 亜美
- あいふるの里
調理 河野 加奈
- 萩の里
特養 工藤 三徳子

特別賞

- あいふるの里
調理 達美津子
- 萩の里
デイサービス 中村 多美子

平成23年度 クリスマス会

各施設で様々なアトラクションやゲームが行われ、大いに盛り上がりました。



ファミリーフレンドリー企業活動 第3弾!! 『親と子のふれあいイベント 2011』



平成23年11月に社員会の活動として、あいふるの里に勤務するスタッフおよびスタッフのお子さんの総勢44名で知多郡美浜町にある「ジョイフルファーム鶴の池」と「えびせんべいの里」へ行つきました。ジョイフル鶴の池では家族みんなでバーベキュー・みかん狩りを楽しみ、大人も子どもも大満足の表情でした!!



当法人は平成20年9月にファミリーフレンドリー企業として登録されました。ファミリーフレンドリー企業とは、仕事と育児・介護を両立させることができる様々な制度を持ち、多様で柔軟な働き方を選択できるような取り組みを行う企業のことです。

小川の里でも仕事と子育てを両立して頑張るスタッフの応援企画として、小中学生のお子さんのいるスタッフと家族を対象に、「みかん狩り、バーベキューツアー」を企画実践しています。写真は平成23年11月、浜名湖での一コマです。一日子どもと遊び、お腹も一杯!家族間の交流の場にもなっており、今後も続けていきたいです。

法人内社員接遇研修



【日 時】平成23年10月12日(水曜日)
10:00~16:00

【場 所】一宮市萩の里
特別養護老人ホーム 会議室

【参 加 者】55名

【講師紹介】株式会社しののコーポレーション
代表取締役 濱島 しのぶ 先生

【ね ら い】研修に対するモチベーションアップ
接客と接遇の違いを理解し、個々の
対象者に合わせた対応ができるこ
とをねらいとしている。

上記の内容で研修が実施されました。研修では多くのことを学ぶことができました。あいさつの基本、接客・接遇の違い、老人福祉施設での環境整備について本当に吸収することが多い研修会であり、各施設でも研修会のあとに勉強会を実施しています。笑顔の基本を忘れずに、良いケアサービスを提供していきます。



櫻井ヨシ子さんは、大正5年2月16日山口県で3人兄弟の末っ子としてお生まれになり、現在95歳になられます。平成18年12月より萩の里のデイサービス、平成19年4月よりショートステイをご利用されており、平成23年1月に風の苑マグノリアにご入所されました。子どもの頃は元気のよいお調子ものもあり、お兄様とよく喧嘩をしてはすぐ泣いてしまう泣き虫でもあったそうです。

昭和20年に結婚してご主人の出身地の愛知県稲沢市に移られて、すぐご主人は戦争に出兵されるが、戦地にて亡くなられてしまいました。その後は紡績会社で事務のお仕事をしながら女手一つで息子さんを育てられたそうです。

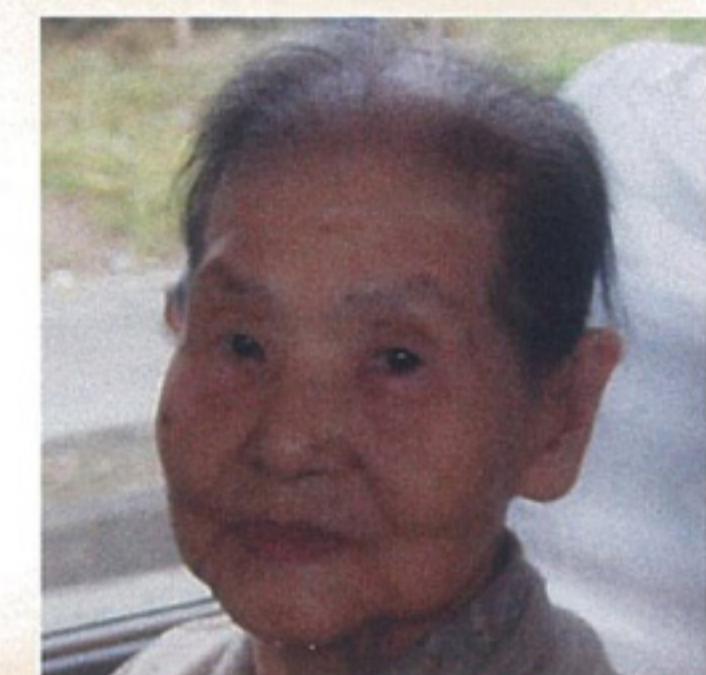
昭和50年に一宮市に移られてからは、お孫さんの子守りや若い頃に習い覚えた和裁も人から頼まれてはこなされていたそうです。

昔はかなり厳格な方だったそうで、ご本人も自覚があるようで「私は口が立って、私が近くによると皆姿勢がピシっとなるくらいだった。もうちょっと丸くしないかんかったなあ」と言われておりました。

今は穏やかでおしとやかな印象で、洗濯物たたみなどのお手伝いもしていただいている。また、外泊をされ、ご家族と過ごされることも多く、日々を楽しく過ごしております。



今昔物語 第15回



ここでは、「今昔物語」と題しまして、ご利用者の歩まれた様々な人生にスポットを当て、現在の生活を語っていただきます。今日は、風の苑マグノリアのご利用者、櫻井ヨシ子さまにお話を伺いました。

中部善意銀行様主催のチャリティー芸能感謝祭に参加しました

12月4日に中部善意銀行様のご配慮にて、今池ガスホールで行われました「チャリティー芸能感謝祭」に新和樂荘のフラダンスマッチングチームが出演。本格的に、フラダンスマッチングチームを立ち上げてから2年程経ちますが、メンバーの皆さん、日々の練習の成果を発表できる場を頂いたことで、大変喜んでみました。当日に近づくにつれ、大舞台での発表ということで、それぞれが、練習に取り組む姿勢が普段以上に真剣であったように思います。本番では程良い緊張感の中、練習の成果を十分に発揮できたようで、満面の笑みを浮かべ、満足そうな表情をされてみました。なんと近藤荘長も「風雪流れ旅」を熱唱。本年4月29日愛知芸術文化センターに出演決定。



ファミリーフレンドリー企業活動 第3弾!! 『親と子のふれあいイベント 2011』



平成23年11月に社員会の活動として、あいふるの里に勤務するスタッフおよびスタッフのお子さんの総勢44名で知多郡美浜町にある「ジョイフルファーム鶴の池」と「えびせんべいの里」へ行つきました。ジョイフル鶴の池では家族みんなでバーベキュー・みかん狩りを楽しみ、大人も子どもも大満足の表情でした!!



当法人は平成20年9月にファミリーフレンドリー企業として登録されました。ファミリーフレンドリー企業とは、仕事と育児・介護を両立させることができる様々な制度を持ち、多様で柔軟な働き方を選択できるような取り組みを行う企業のことです。

小川の里でも仕事と子育てを両立して頑張るスタッフの応援企画として、小中学生のお子さんのいるスタッフと家族を対象に、「みかん狩り、バーベキューツアー」を企画実践しています。写真は平成23年11月、浜名湖での一コマです。一日子どもと遊び、お腹も一杯!家族間の交流の場にもなっており、今後も続けていきたいです。

法人内社員接遇研修



【日 時】平成23年10月12日(水曜日)
10:00~16:00

【場 所】一宮市萩の里
特別養護老人ホーム 会議室

【参 加 者】55名

【講師紹介】株式会社しののコーポレーション
代表取締役 濱島 しのぶ 先生

【ね ら い】研修に対するモチベーションアップ
接客と接遇の違いを理解し、個々の
対象者に合わせた対応ができるこ
とをねらいとしている。

上記の内容で研修が実施されました。研修では多くのことを学ぶことができました。あいさつの基本、接客・接遇の違い、老人福祉施設での環境整備について本当に吸収することが多い研修会であり、各施設でも研修会のあとに勉強会を実施しています。笑顔の基本を忘れずに、良いケアサービスを提供していきます。



櫻井ヨシ子さんは、大正5年2月16日山口県で3人兄弟の末っ子としてお生まれになり、現在95歳になられます。平成18年12月より萩の里のデイサービス、平成19年4月よりショートステイをご利用されており、平成23年1月に風の苑マグノリアにご入所されました。子どもの頃は元気のよいお調子ものもあり、お兄様とよく喧嘩をしてはすぐ泣いてしまう泣き虫でもあったそうです。

昭和20年に結婚してご主人の出身地の愛知県稲沢市に移られて、すぐご主人は戦争に出兵されるが、戦地にて亡くなられてしまいました。その後は紡績会社で事務のお仕事をしながら女手一つで息子さんを育てられたそうです。

昭和50年に一宮市に移られてからは、お孫さんの子守りや若い頃に習い覚えた和裁も人から頼まれてはこなされていたそうです。

昔はかなり厳格な方だったそうで、ご本人も自覚があるようで「私は口が立って、私が近くによると皆姿勢がピシっとなるくらいだった。もうちょっと丸くしないかんかったなあ」と言われておりました。

今は穏やかでおしとやかな印象で、洗濯物たたみなどのお手伝いもしていただいている。また、外泊をされ、ご家族と過ごされることも多く、日々を楽しく過ごしております。



今昔物語 第15回



ここでは、「今昔物語」と題しまして、ご利用者の歩まれた様々な人生にスポットを当て、現在の生活を語っていただきます。今日は、風の苑マグノリアのご利用者、若かりし頃の思い出や、

中部善意銀行様主催のチャリティー芸能感謝祭に参加しました

12月4日に中部善意銀行様のご配慮にて、今池ガスホールで行われました「チャリティー芸能感謝祭」に新和樂荘のフラダンスマネージャーの皆さん、日頃の練習の成果を発表できる場を頂いたことで、大変喜んでみました。当日に近づくにつれ、大舞台での発表ということで、それぞれが、練習に取り組む姿勢が普段以上に真剣であったように思います。本番では程良い緊張感の中、練習の成果を十分に発揮できたようで、満面の笑みを浮かべ、満足そうな表情をされてみました。なんと近藤荘長も「風雪流れ旅」を熱唱。本年4月29日愛知芸術文化センターに出演決定。



懐かしのテレビドラマ

あの頃、日本人は
幸せだった…

テレビドラマが最も輝いていたのは、「70~80年代前半」だったでしょうか。この時代は倉本聰さん、山田太一さん、向田邦子さん、市川森一さん、鎌田敏夫さんら大御所の脚本家の時代がありました。彼らの一番脂がのっていた時期で、脚本を演出するディレクター陣もすごかった。邦画が斜陽期で映像をやりたい人材がテレビに集中したと言えます。そんな中で役者も自然と熱くなり、優れた作品が出来るのも当然でした。

北の国から(ホームドラマ 1981年~ フジテレビ系列/金曜22時)

田中邦衛・吉岡秀隆・中嶋朋子 脚本:倉本聰

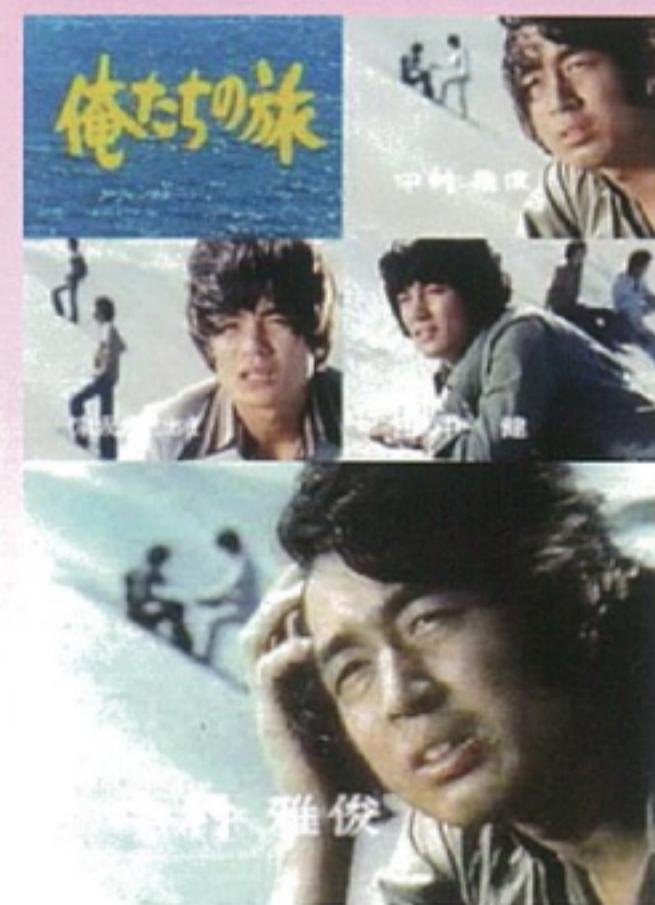
東京の生活に馴染めず、妻の浮気を契機に北海道富良野に帰郷した黒板五郎(田中)・長男・純(吉岡)・長女・蛍(中嶋)の3人の親子が電気もガスも無い大自然の中で懸命に生き抜く姿を描いた作品。倉本聰は21年にわたってドラマの登場人物と視聴者が同時代を生きるという希有な体験をさせてくれた。主題歌の作曲・スキャットは、さだまさし。コンセプトは、アメリカのテレビドラマシリーズ「大草原の小さな家」をヒントにしたものと言われる。純による東京のガールフレンドに語りかけるナレーションが、物語の語り手となっている。「今日僕は…な訳で」、「…しており」、「…と思われ」という語り口が特徴。ガールフレンドに語りかける設定が無くなった続編でも、この口調だけは踏襲されている。予算の総額は約6億円で、一回当たりの制作費は約2500万円であった。ただし、倉本によると実際には一回当たり5000万円近くかかり、放映前の時点で赤字が積み上がったため、プロデューサーの中村敏夫が心痛から急病で入院することになった。『遺言』が最後だがそれで完結したわけではない。ファンの中で五郎や純、蛍が今も年を重ねているように、倉本の中でも黒板一家の人生は続いている。富良野の資料館で3人のその後を伝えている。現在、蛍は東日本大震災の被災地に赴き、看護師としてボランティアに励んでいる。夫の正吉は震災による津波で流されてしまいました。蛍の子どもは五郎が預っています。純も被災地に入り、ボランティアでがれきの撤去作業を行っています。



俺たちの旅(青春ドラマ 1975年~ 日本テレビ系列/日曜20時)

中村雅俊・秋野太作・田中健 脚本:鎌田敏夫

二流私大生カースケ(中村)、その同級生オメダ(田中)と同郷の先輩グズ六(秋野)を中心に織りなす友情と青春群像を活写し、生きることの意味、悩み、喜びなどについて問いかける。カースケはバスケットボール部のキャプテンでエースであったが、就職活動はほとんどせず、アルバイト中心でその日が楽しければよいというタイプであり、気楽な毎日を過ごしていた。一方、親友のオメダは父親不在の生い立ちと彼自身の生真面目な性格からか、堅実なサラリーマンに対して執着を見せるなど、カースケと対照的な存在だった。また、同郷の先輩グズ六は勤めが長働きせず、恋人の紀子や母親の気をもませていた。一旦は3人とも勤め人になるも、結局、正直すぎた彼らは不条理な社会の慣習や人間関係に縛られることを嫌い「なんとかする会社」を立ち上げ、自由奔放、独立独歩の生活をする決心をしたのであった。30年目SP(放送2003年12月16日)では前回の20年目SPでマジョルカ島へ意を決して旅立ったカースケが帰ってきて徳島の港で働いていた、グズロクは家族と疎外気味、オメダは市長選の真っ最中。50代になった彼らはそんな中再会する。カースケの妻が、子供が東京の学校でうまくいかないのに悩み、カースケのいる町のフリースクールへ子供を通わせる。オメダは10年目SPで知り合った女性の子供を助けるため病院へ行かせたりする中、それを隠すなどとスキャンダルにされながらも市長選に奮戦。そしてある時カースケはオメダから学生時代の友人洋子(金沢碧)がすでに亡くなっていたことを聞かされる…。



次回は、「日本一のチャンバラスターは誰だ!」。どうぞ期待。

編集後記

暖冬の12月も後半は全国的に「クリスマス寒波」の影響で例年ない寒さが続き、豪雪の白川村も3日ほどで1メートルを越える降雪となり、除雪に追われる毎日でした。NHKのドラマロケも12月中旬から白川村内の撮影からをスタートし、さくら山荘、マグノリアと順調に収録されているようです。表紙を飾る一コマは「白川郷荻町春駒保存会(七福神)」という白川村の伝統芸能の一つです。毎年1月1日の元旦に荻町集落内の家々を廻り、福をもたらす縁起の良い伝統文化です。「瀬音さくら山荘」へもお越しいただき、ファミリーへ福をお配りいただいた時のものです。勿論、元旦です。ファミリーの皆さんとっても幸せいなお顔をしてみました。

祭ばやし55号 編集長K.T.

時間ですよ(ホームドラマ 1970年~ TBS系列/水曜21時30分)

森光子・堺正章・樹木希林 脚本:向田邦子他

銭湯「松の湯」のおかみさん(森)を軸とした下町人情ドラマだが、堺正章と樹木希林とのコミカルな掛け合い、毎回出てくる女湯シーンのおっぱいポロリなど、魅せる演出が満載だった。当初はワースト番組と批判されたりもした。1965年7月4日に東芝日曜劇場で、単発ドラマとして『時間ですよ』が放送され(脚本:橋田壽賀子)好評であったため、5年後に連続ドラマ化されることとなった。連続ドラマ化の企画段階では『セントウ開始』というタイトルだった。1970年代にシリーズ化され、1980年代にもリヴァイヴァルした。パート2では二階のまりちゃん役で天地真理がデビュー。ギターを持って「恋は水色」を歌ってるまりちゃんが目に浮かんできますね。パート3では浅田美代子を抜擢して歌唱力は別として「赤い風船」が大ヒット。アイドルの輩出もし、「時間ですよ」の黄金期となつた。『時間ですよ・たびたび』は、出演していたとんねるずの版権関係が複雑化していることなどで、再放送は一度きりになつて。『時間ですよ・平成元年』は、出演していた中居正広がジャニーズ事務所所属であり、肖像権が厳しいため、再放送、DVDソフト化はされていない。



太陽にほえろ!(刑事ドラマ 1972年~ 日本テレビ系列/金曜日20時)

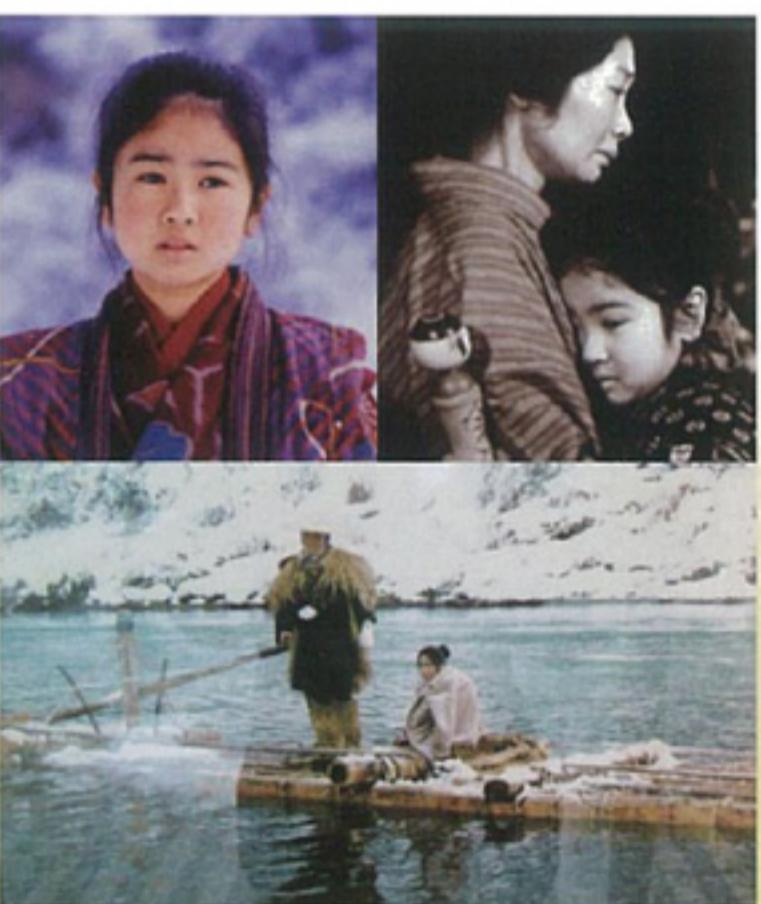
石原裕次郎・露口茂・勝野洋・宮内淳・松田優作他 脚本:市川森一・鎌田敏夫他

藤堂係長(石原)以下、ニックネームで呼び合う警視庁七曲署・刑事課捜査第一係(強行犯係)の刑事たちの活躍を描いた番組。日本の刑事ドラマを代表する作品である。ボス(石原)・山さん(霧口)・ゴリさん(竜雷太)・殿下(小野寺昭)・長さん(下川辰平)・マカロニ(萩原健一)・ジーパン(松田)・テキサス(勝野)・ポン(宮内)それまでの刑事ドラマは事件と犯人が中心で描かれており、レギュラーの刑事達は狂言回しに過ぎなかった。しかし本作は、所轄署の捜査一係に勤務する刑事の一人一人にフルネームと性格設定を与え、「青春アクションドラマ」と銘打って刑事を主役にした物語を展開した。「走る」刑事ドラマとしても有名で、勝野洋、宮内淳が走った距離は地球半周分とも言われる。サツ、デカ、ホシ、タレコミといった警察用語を世に広めたが、取り調べの際の出前など実際の警察とは異なる描写も多い。新人や無名俳優を主演の新米刑事として出演させてその人間に成長する姿を描き、やがて彼らが「殉職」することで番組を卒業していくというパターンが定着。ジーパンの殉職シーン「なんじゃこりやあ〜〜」裏切られて撃たれた言葉にならない叫びが痛いほど伝わったセリフが思い出されます。

おしん(NHK朝の連続テレビ小説 1983年~)

小林綾子(少女期)・田中裕子(成年期)・乙羽信子(老年期)・泉ピン子・伊藤四朗 脚本:橋田壽賀子

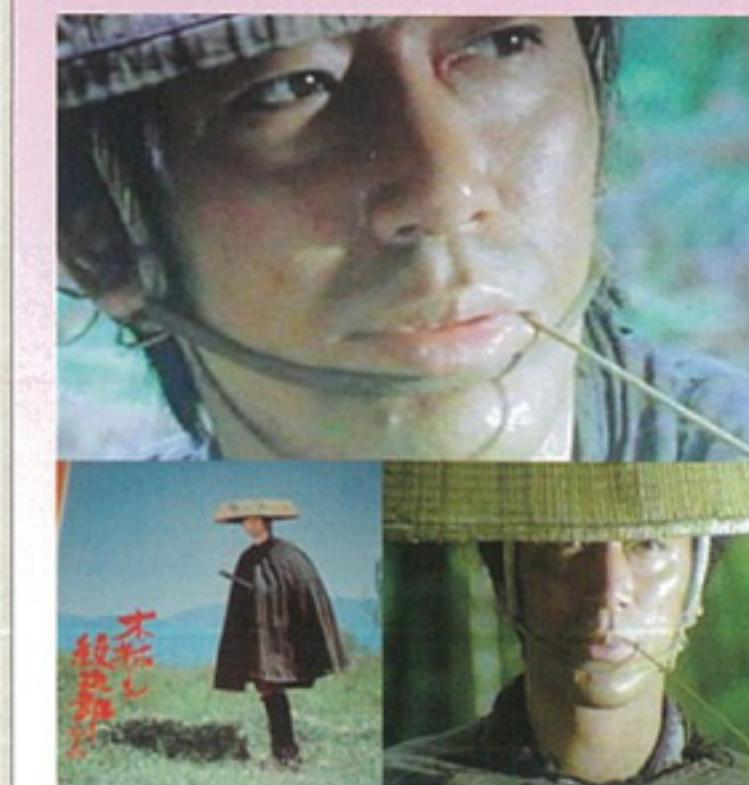
平均視聴率は52.6%、最高視聴率は62.9%。ビデオリサーチの統計史上、テレビドラマの最高視聴率記録の伝説的とも言えるブームを巻き起こした。『おしん』誕生のきっかけは、橋田壽賀子の元に寄せられた一通の匿名の手紙であった。ある明治生まれの女性が、人に言えない過去を病床で綴つたものでした。子守り奉公したり、女郎屋に売られたり、明治の人の苦労を伝えるのは、自分たちの世代の義務だと感じた。「おしん」の幼年期の苦労や創業当時の行商などは、ダイエーを興した中内功をモデルにしている」としている。ヤオバンを興した和田カツをモデルにしたという説もある。利発で心の優しい少女。家の貧しさと口減らしのため7歳で奉公に出される。しかし奉公の厳しさに耐えかね、抜け出し遭難しかけた所を脱走兵・俊作に助けてもらい様々なことを教わる。その後、酒田の米問屋「加賀屋」に奉公に出ることになり、当家の跡取り娘・八代加代(東てる美)のかけがえの無い友と共に、大奥様ぐるに(長岡輝子)の教えを一身に受け、立派に成長していく。父の作造(伊藤)が、娘のおしんを奉公に出す川下りのシーンは窮屈と悲惨を象徴し、本ドラマで必ず引き合いに出されるほど有名なシーンが思い出される。後に世界63か国や地域で放送され、日本だけでなく世界各国で人々の共感を呼び、「おしんシンドローム」とされ今もなおファンが多く根強い人気がある。



木枯らし紋次郎(時代劇 1972年~ フジテレビ系列)

中村敦夫・坂口良子・岸部一徳

これまでの股旅物の主流であった「ヒーロー然とした渡世人がバッタバッタと悪人達をなぎ倒し、善良な人々を救う」といったスタイルを排し、他人との関わりを極力避け、己の腕一本で生きようとする紋次郎のニヒルなスタイルと、主演の中村敦夫のクールな佇まいが見事にマッチし、空前の大ヒット番組となった。また、殺陣についてもリアルさを追求し、渡世人同士の喧嘩に近い殺陣となっている。紋次郎が口にする「あっしには関わりのねえこって」が流行語となつた。映画版では「あっしには関わりねえことでござんす」と、若干異なる。このドラマの主題歌『だれかが風の中で』を歌つたのは上條恒彦であり、こちらも大ヒットした。舞台は天保年間。上州新田郡三日月村の貧しい農家に生まれた紋次郎は、生まれてすぐに間引きされそうになる所を姉おみつの機転に助けられた。薄幸な子供時代を過ごした紋次郎は、10歳の時に家を捨てて渡世人となる。ボロボロな大きい三度笠を被り、薄汚れた道中合羽を羽織り、長い楊枝をくわえるのが彼のスタイルである。ストーリーは1話ごとのオムニバス形式となっており、ストーリーの連續性はない。レギュラーは主人公の紋次郎のみである。



NHKドラマ「家で死ぬということ」制作秘話@瀬音さくら山荘

NHK土曜ドラマスペシャル「家で死ぬということ」が、白川郷を舞台にして制作決定。ドラマの内容は住み慣れた自宅で最期を迎えることをテーマとし、主人公にクールガイの「高橋克典さん」や、名女優の「渡辺美佐子さん」など豪華キャストです。昨年12月よりクランクイン。当法人の「瀬音さくら山荘」や「風の苑マグノリア」もロケ現場になりました。放送はNHK総合チャンネルで、平成24年2月25日(土)夜9時から。1回のみの土曜ドラマスペシャルです。是非ご覧くださいね。



国広富之さんが、施設長役(黄色いジャンバー)で熱演

ストーリー

中村ひさ子(渡辺美佐子)は癌が再発し、余命3ヶ月と言われる。東京に暮らす娘の恵美(西田尚美)は、ひさ子を東京の病院に入院させようとするが、ひさ子は「白川村の合掌造りの家で死にたい」と言い張る。恵美の夫・純一(高橋克典)は、ひさ子を説得するために白川村に向かうのだが…

【番組名】土曜ドラマスペシャル「家で死ぬということ」

【放送予定】平成24年2月25日(土)[総合]夜9:00~10:13 全国放送

【収録予定】平成23年12月中旬~平成24年1月中旬

【脚本】大島里美(ドラマ「リトルの涙」「東京タワー」「グッドライフ」など)

【音楽】栗山和樹(大河ドラマ「北条時宗」/連続テレビ小説「芋たこなんきん」など)

【出演】高橋克典 渡辺美佐子 西田尚美 山口紗弥加 庄野崎謙 野村麻純
佐藤正宏 国広富之 他

【演出】佐藤 譲(連続ドラマ小説「芋たこなんきん」など)

【制作統括】土屋勝裕(大河ドラマ「龍馬伝」など)

白川村の皆さん、当法人スタッフも出演します。乞うご期待。

名古屋放送局制作土曜ドラマスペシャル

「家で死ぬということ」

高橋克典 × 看取り × 世界遺産・白川郷

高橋克典が、世界遺産・白川郷で、
義母を「しまってあげる(看取る)」ドラマ

◇白川郷では、人の死を看取ることを「しまってあげる」と言う。

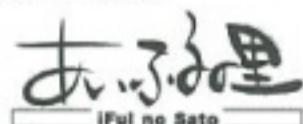
◇白川郷・五箇山の合掌造り集落は、1995年に世界遺産に登録された。



「瀬音さくら山荘」での撮影風景

【高橋克典】ドラマ「サラリーマン金太郎」シリーズや「特命係長・只野仁」シリーズなどで、熱血サラリーマンを演じて人気を博す。NHKでは「大仏開眼」、「15歳の志願兵」(名古屋放送局制作)に出演。

あいがいっぱい



TEL.0586-78-8441
FAX.0586-78-8485

横丁のディサービスセンター



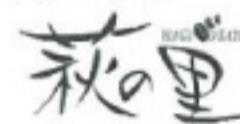
TEL.0586-78-2171
FAX.0586-78-2172

こはるびより



TEL.0566-73-7011
FAX.0566-73-7010

ライフガーデン



TEL.0586-0363
TEL.0586-68-7311
FAX.0586-68-5826

春のかほり



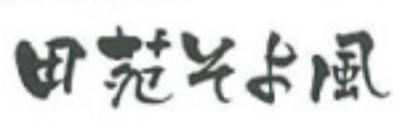
TEL.0566-99-6514
FAX.0566-99-6524

風の苑



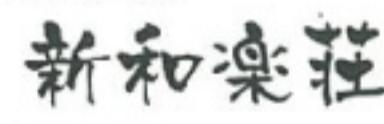
TEL.0586-0051
TEL.0586-47-6811
FAX.0586-47-6812

雅び・遊び・喜び



TEL.0586-0363
TEL.0586-67-2611
FAX.0586-68-5799

ひだまりの詩



TEL.0586-67-2311
FAX.0586-68-7337

スタッフ募集集中

只今スタッフを募集しております!!

■お問い合わせ

あいふるの里 TEL : 0586-78-8441 (総務)
秋の里 TEL : 0586-68-7311 (総務)
小川の里 TEL : 0566-73-7011 (総務)
新和楽荘 TEL : 0586-67-2311 (総務)
瀬音さくら山荘 TEL : 05769-5-2141 (総務)
風の苑 マグノリア TEL : 0586-47-6811 (総務)

介護スタッフ
看護スタッフ
ホームヘルパー
夜勤スタッフ
詳しくはホームページ

愛知慈恵会 検索へGO!!

<http://www.iful-jikeikai.com>

